



伊勢志摩サミット

記録誌



伊勢志摩サミット
三重県民会議

序文—ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

会長 鈴木英敬
(三重県知事)



5月26日、27日の2日間にわたり開催されました伊勢志摩サミットは、天気予報を覆す奇跡的な天候の下、無事故かつ成功裏に閉幕しました。三重県民の皆さんをはじめ、関わった全ての方々のおかげであり、心から感謝申し上げます。

今回のサミットを振り返って、「県民の皆さんの大活躍」「安全な開催」「G7首脳による伊勢神宮訪問」「情報発信」の4つの点から、大成功につながったと考えています。

1つ目は、サミットに関わった県民の皆さんに広く活躍いただいたことです。

おもてなし大作戦、外国語案内ボランティア、ジュニア・サミットなど、オール三重での取組を通じて、県民の皆さんの底力を改めて感じました。特に、若者の活躍が次世代を担う人材育成のきっかけにつながったことは、今回のサミットのレガシーの1つであり、三重県の財産といえます。

2つ目は、サミットを無事安全に開催することができたことです。

我が国の警察関係者がその威信をかけて、過去最大規模で警備に臨まれ、また海上保安庁や自衛隊等、多くの連携があったからこそ、逮捕者もゼロという結果を得ることができました。また、安全・安心に万全を期すため、県民の皆さんや事業者の方々にさまざまな面でご不便やご負担をおかけしましたが、皆さんのご協力があったからこそ、サミットを無事に閉幕することができました。

3つ目は、G7首脳による伊勢神宮訪問が実現したことです。

安倍総理がG7首脳と宇治橋を渡り、ご正宮前で記念撮影が行われましたが、これは非常に感動的な情景でした。

伊勢神宮は人種や宗派、世代を越えて、多様な価値観を寛容に受け入れ、平和への祈りをささげる場であり、G7のリーダーが、伊勢神宮のある三重の地に集い、世界平和の確立に向けたメッセージを発信したことは、歴史に残る画期的な出来事です。このことは、サミット終了後のオバマ大統領の広島訪問と合わせ、「前向きな未来志向」に立ったものであり、G7首脳の伊勢神宮訪問は大変意義深いものであったと思います。

4つ目は、情報発信です。サミット開催に向けて全力で三重県の情報発信に努めてきた結果、当初の予想を超える成果があったと感じています。

食材や調度品について、一品でも多く県産材や県産品を使っていただけよう国等に働きかけを行った結果、首脳や配偶者のランチやディナーには、伊勢えび、松阪牛、伊賀牛等の三重県産の食材を生かした料理が提供され、首脳の食事の際の乾杯は全て三重県の酒蔵から提供された地酒で行われた等、三重県の食の魅力を最大限にアピールすることができました。国際メディアセンターで国内外の報道関係者に提供された食事においても、ほぼ全てのメニューに三重県の食材が使用されました。その他、乾杯で使用された萬古焼、尾鷲ヒノキの会議用テーブル等、多くの県産品が使用されました。

このようにサミットを通じて、多くの県民の皆さんが自分たちのふるさとの魅力に改めて気づき、愛着や誇りを持たせたことが、サミットの最大の資産（レガシー）といえます。このことは地域住民が地域をより良くしていこうという動機付けとなり、そのための具体的な行動が活発化して、自立的かつ持続的に発展する契機となります。

サミット開催は、チャンスでしかありません。県民の皆さん一人ひとりがチャンスを掴みに行こうとする思いと行動が大切です。

サミットというチャンスを生かし、三重県がさらなる飛躍を遂げられるよう、今後とも、皆さんのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

この度、伊勢志摩サミットの記憶を後世に引き継ぐため、サミットの準備段階から開催経過、県民会議や市町の取組などを取りまとめ、記録誌として刊行しました。サミット後の県や市町の施策展開や民間企業等の取組に役立てられることを期待しています。

最後になりますが、伊勢志摩サミットの開催をご決定くださった安倍総理をはじめ、政府関係者の方々にあらためて敬意と感謝の意を表しますとともに、ご協力いただいた三重県民の皆さんをはじめ、全国の企業や団体の皆さんに心から感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

副会長 竹内 千尋
(志摩市長)



2016年のG7サミットが伊勢志摩で開催され、成功裏に閉幕しましたことは、三重県の歴史の中で記念すべきことであり、誠に慶びに堪えません。政府のご努力はもちろんのこと、三重県においても官民一体となった協力体制の賜と敬意を表する次第です。

志摩市は、平成27年6月に安倍総理大臣から伊勢志摩でのサミット開催が発表されて以来、開催地の自治体として、サミットの成功に向け、官民一体となった「伊勢志摩サミット市民会議」を立ち上げ、県民会議とともに取り組みを進めてまいりました。開催地としての環境を整えるための事業には、資材の提供やボランティアの派遣など、県民会議から多くの人的・物的支援を受けて、おもてなしの体制を整えることができました。訪れた関係者の方々には、地元の歓迎の気持ちを伝えることができたと思います。

また、県民会議によるプレスツアーや首都圏でのPRイベントなどで、三重県全体の情報発信が効果的に行われました。今回のサミットにより知名度は格段に向上し、素晴らしい自然環境、豊かな食、歴史・伝統文化などの多くの魅力が広く発信され、活性化が図られましたが、この成果を一過性のものとせず、将来にわたって持続させる必要があります。このサミットを通して得た経験を生かし、官民一体となって継続して努力を重ねていくことが、「ポストサミット」にとって重要であると考えております。

最後になりましたが、政府関係者の皆様、並びに県民会議の運営をはじめ、様々な事業にご協賛・ご協力賜りました多くの企業や県民の皆様に深く感謝申し上げます。

ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

副会長 中村 進一
(三重県議会議長)



世界各国からお越しいただいた皆様を心から歓迎し、オール三重でおもてなししたサミットが成功裏に終わったことは、誠に喜ばしく、明日への大きな自信となりました。この場をお借りして、ご支援とご協力をいただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

今回のサミットは、三重県の文化や産業にも触れていただくなど、世界に向けた三重の魅力発信という意味だけでなく、各国首脳の前伊勢神宮訪問、サミット終了後の米国オバマ大統領の広島訪問など世界平和への強力なメッセージが発信された歴史的なサミットでもありました。

サミットの開催により、伊勢志摩の名前と世界平和への思いを世界中に広めることができたことは大きな財産であり、その効果は計り知れないものがあります。

また、様々な場面で県民と交流する機会が設けられていたことから、県民は普段では得難い経験を行うことができました。特に未来を担う子どもたちがサミットで得た経験は、将来に向けた大きな財産であると思います。

今後は、伊勢志摩サミットで得られた資産（レガシー）を三重の未来に生かしていくため、県民一丸となってしっかり取組を進めていく必要があると考えています。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、様々な場面で伊勢志摩サミットを成功に導いてくださった皆様に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

副会長 小林 長久
(三重県商工会議所連合会会長)



伊勢志摩サミットが無事成功裏に終了できましたことに、心から感謝申し上げます。また、国・県の関係者は勿論のこと、成功裏に終了されることを念願されておられました三重県民の皆様に、心から御礼申し上げます。本当に無事大成功に終了でき、ありがたく思っているところです。

思えば昨年6月5日、伊勢志摩サミット開催が公表されて以来、その誘致活動に奔走してきた三重県、地元伊勢志摩地域、様々な関係者が喜びとともに、不安と覚悟が錯綜する中、一年足らずで準備を展開してまいりました。私ども産業経済界も財政面、人材面、実践面で様々な協力を行ってまいりました。とりわけ、伊勢志摩地域の皆様方におかれましては、表舞台に立たれる関係者へだけでなく、警備、移動確保、ロジスティックスといった裏方を担当される方々へのご理解とご協力を賜り、あらためて心から御礼申し上げます。

このサミット開催で得たものには国・県はもとより、地域や三重県の産業経済界にも大きなものがあります。今回の開催が三重県・伊勢志摩をブランド化して観光誘客の増進につながることは当然であります。最大の効果は、三重県産業経済界を含め様々な主体が連携して実行すれば世界的イベントを成功させることができると言う成功体験の味わいではないかと思えます。今後は、この体験に酔いしれることなく、実感を活用してさらなる三重県の発展のために連携協力をしてまいりたいと考えていますので、県民の皆様方もよろしくご理解ご協力をお願いいたします。誠にありがとうございました。

ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

副会長 雲井 敬
(公益社団法人三重県観光連盟会長)



伊勢志摩サミットが、日本の原風景といわれる風光明媚な三重県で、本年5月に開催され、成功裏に終了いたしました。

三重の誇る歴史、文化、食などの魅力あふれる素材が、各国首脳、政府関係者をはじめ世界各国のプレスを通じて、国内外に発信され、「MIE」・「ISE-SHIMA」の文字が多くの国のニュースや新聞紙面を飾ったであろうことを思うと、この千載一遇のチャンスに立ち会えたことは感慨深いものとなりました。

首脳会議には、世界経済やテロ対策、難民問題、海洋安全保障など幅広いテーマが挙がっておりましたが、各国の首脳や配偶者、メディアをお迎えする私達にとりましては、「三重」「伊勢志摩」がいかに世界に発信され、人々の記憶に残るかが、今後の三重の観光振興そして、これから三重県を訪れる訪日外国人の増加に大きく影響するであろうと考えていました。

伊勢神宮の神域やリアス式海岸の絶景、提供された御饌つ国を象徴する県産食材の豊富さとその実力、桑名で開催されたジュニア・サミットでの次世代を担う若い世代の交流も含め、短い時間ではあったものの、三重の魅力とその素晴らしさを感じていただけたのではないかと考えています。改めて、わが故郷の持つポテンシャルの高さを再認識する良き機会になったと実感しており、国内外の観光客の皆様にも繰り返し訪れていただけるよう、更に努力してまいります決意です。

三重県が、観光立県へと大きく舵を切り、観光が一大産業へと発展することをめざし、この伊勢志摩サミットの経験を生かして三重が選び続けられる観光地となるよう、県民の皆様とともに歩み続けていきたいと考えています。

今後ともよろしくご支援をお願いいたします。

目次

序文—ご挨拶	1
第1編 サミット概要	9
第1章 G7サミットの概要	10
第2章 伊勢志摩サミットの概要	11
1 日 程	11
2 参加国・参加者	13
3 関連施設	13
4 首脳会議等の概要及び成果	19
第3章 配偶者プログラム	27
第2編 サミット開催に向けて	33
第1章 誘 致	34
1 経 緯	34
2 誘致決定	34
3 三重県の提案内容	34
4 2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会	36
5 国による事前調査	36
6 知事等による要望活動	36
7 議会の決議	37
8 開催決定	37
9 開催日の決定	37
10 海外開催地視察	37
11 国内開催地視察	39
第2章 体 制	40
1 県庁内の推進体制	40
2 伊勢志摩サミット三重県民会議	46
3 伊勢志摩サミット国関係機関連絡会議	49
4 伊勢志摩サミット市町連絡調整会議	51
5 伊勢志摩サミット地域連絡調整会議	53
6 国への応援体制（外務省業務への応援）	53
第3編 県民会議等の取組	55
第1章 概 要	56
1 取組の基本的な考え方	56

2	企業、団体等との協働の推進	57
3	伊勢志摩サミット通信	59
4	広報計画	60
第2章 開催支援		62
1	宿泊予約センターの設置	62
2	県産食材等の利用促進	66
3	弁当供給体制の整備	67
4	外国語案内ボランティア	70
5	インフォメーション機能の整備	74
6	輸送サービスの円滑な提供	76
7	警備関係への協力や住民への情報提供	78
8	伊勢志摩サミット開催記念セミナー 及び伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～	81
9	在外公館における天皇誕生日レセプションでのPR	84
10	各国先遣隊歓迎夕食会	84
11	国際メディアセンター完成式及び完成記念祝典	87
12	三重のおもてなしバッグ	89
13	識別証、車両証の発行	92
14	NGOへの対応	93
15	G7首脳等に対する歓迎行事等	95
16	G7首脳等による芳名帳	95
17	G7首脳による記念植樹	96
18	贈呈品	97
19	各国首脳等と県民との交流 ～「世界との絆づくり」～	100
第3章 おもてなし		104
1	伊勢志摩サミットフォーラム	104
2	おもてなし大作戦	107
3	カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR	110
4	おもてなし向上研修	113
第4章 明日へつなぐ		115
1	ジュニア・サミット	115
2	多様な主体における国際理解・国際交流事業	125
3	大学生・留学生との交流事業	130
4	サミット協力宿泊施設経営向上支援補助金	135
5	伊勢志摩サミット開催記念・三重の魅力再発見キャンペーン	135
6	伊勢志摩サミット記念館（仮称）の設置	135

第5章 三重の発信	136
1 ホームページ、SNSでの発信	136
2 ポスターによるPR	138
3 シンボルマーク	142
4 伊勢志摩サミット・ロゴマーク	145
5 海外プレスツアー等の実施による情報発信	145
6 海外メディア等を活用した情報発信	152
7 県内での情報発信イベント	153
8 県外での情報発信イベント	155
9 海外ミッションの機会等を利用したPR	157
10 情報誌の発行	159
11 PR動画の放映	161
12 三重情報館	162
第6章 市町の取組	170
1 地元4市町（志摩市・伊勢市・鳥羽市・南伊勢町）及び桑名市の取組	171
2 その他市町の取組	185
第7章 広域の連携	204
1 東海三県一市の連携体制	204
2 関係閣僚会合開催自治体との連携体制	207
3 ヒロシマ・ナガサキ原爆展	208
第8章 警備・消防・保健医療	211
1 警 備	211
2 消 防	214
3 保健医療	219
4 警備・防災・医療等事務担当者情報交換会	226
第9章 ポストサミット	229
第4編 予算・決算	233
第1章 県民会議事業の予算・決算	234
第2章 行政事業（伊勢志摩サミット関連予算）	237
資 料 編	243
1 伊勢志摩サミット三重県民会議規約	244
2 伊勢志摩サミット三重県民会議会員等名簿	247
3 伊勢志摩サミット三重県民会議部会運営規程	249
4 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局規程	251
5 三重県伊勢志摩サミット推進本部設置要綱	255

6	三重県伊勢志摩サミット防災・危機対策委員会設置要綱	257
7	三重県伊勢志摩サミット保健・医療対策委員会設置要綱	258
8	伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール	260
9	シンボルマークの使用に関する取扱い	262
10	伊勢志摩サミット三重県民会議寄附金要綱	265
11	協賛、応援事業に関する手続	267
12	寄附金に関する手続	269
13	協賛、応援事業の実績	271
14	寄附金の実績	306
15	サミット食材等活用リスト	317
16	おもてなし大作戦の実施状況一覧	325
17	プレスツアーの取材に基づく報道状況	329
18	三重情報館及び国際メディアセンター政府広報展示スペースの出展内容一覧	332
19	知事臨時記者会見記録	336
20	知事定例会見記録	342
21	伊勢志摩サミットに係る経済効果等の最終試算結果	351
22	伊勢志摩サミットの「レガシー」	362
23	G7伊勢志摩首脳宣言	369
24	桑名ジュニア・コミュニケ	404